

同志社女子大学

生活科学会通信

No. 64

2023 年 6 月

同志社女子大学
生活科学会

マスク、外しましたか

川崎 祐子 (生活科学会会長)

新型コロナウイルス感染症が感染症法上 2 類から 5 類に変更になり、未曾有のパンデミックもようやく出口が見え始めました。三月末に心和館食堂のアクリル板が撤去され、実験実習以外ではマスクを外す学生が増えてきました。

思えば三年前の今頃は入学式も授業もなく、学生のいない閑散としたキャンパスはまるで廃墟のような静けさでした。ソーシャル・ディスタンスは人との接触を否定し、マスクは人間らしい表情を隠しました。声を大にして笑ったり歌ったりすることも、大人数で食事することもなくなりました。授業やゼミを教えていて、以前に比べ若い人たちがおとなしくなったのではないかと心配です。この間に卒業していった学生たちが、四年間で一番の楽しみだったはずの卒業記念パーティーを体験することなく果立っていったのは本当に残念です。ぜひとも仕事や新生活に慣れた五年後、十年後のどこかで学年会を開催し、リベンジを果たしていただきたいと願っています。

この三年で、社会のいろいろなひずみが多岐にわたって出されています。経済活動の停止で真っ先に雇止めされたのは非正規雇用労働者でしたが、二〇二一年の非正規雇用率は男性が 21・8%、女性が 53・6%で、この年女性の自死が三割増加しました。パンデミック初期の感染者は入院を義務付

けられていましたが、法律に基づかないパートナーは入院時の保証人になれず、最期の別れにも立ち会えなかったとも報道され、社会の中で立場の弱い者は誰かが透けて見えました。コロナ禍でさらに拍車がかかった少子化を異次元の対策で取り戻すといっても、戦時中の産めよ増やせよじゃあるまいに、自由や平等を謳う民主主義教育を受けてきた、たまたま「産む性」に生まれた側の人たちがどういう人生を選択するのかを他人が決めるわけでもなく、金銭的補助だけで解決するのか疑問です。そういえば、高校時代に家庭科の先生が「男女の間に生物的な区別はあるにしても差別はあってはならない」と言われたことを久々に思い出しましたが、男女という単純な分け方もすでに時代遅れで、多様な価値観や生き方、多様な文化や背景を互いに理解し受け入れつつ、自分はどう在ることが幸せなのかを自分自身で考えていく時代なのだろうと思います。

日本人は急な変化を嫌うのか、ある意味慣れ親しんだマスクを外すのに勇気がある人も多いかもしれません。それでも笑顔とコミュニケーションを忘れない、この三年間の貴重な体験を次に生かしていきたいものです。かくいう私は花粉症（イネ科）のため、コロナ前も今もマスクをしております（笑）。

生活科学部短信

①人間生活学科の諸井克英先生（社会心理学）が 2023 年 3 月をもって退職されました。先生は長年に渡り本学の教育・研究両面において多大な貢献をされ、この度、名誉教授の称号を受けられました。

②4 月より人間生活学科に村井陽平先生（プロダクトデザイン）が新たに着任されました。

③学部長・学科主任について

生活科学学部長は山本寿先生が、人間生活学科主任は奥田紫乃先生が、食物栄養科学科主任は杉浦実先生が、昨年度に引き続きそれぞれ任にあたられます。

④第 37 回管理栄養士国家試験の全国の平均合格率 56.6%、全国管理栄養士養成施設（新卒）の平均合格率 87.2% に対し、本学管理栄養士専攻新卒の合格率は 97.4%（78 名受験中 76 名合格）でした。

生活科学部の新しいスタッフの紹介

御退職の先生からのメッセージ



プロダクトデザイン
研究室
村井 陽 平

二〇二三年四月一日付で、人間生活学科に着任致しました、村井陽平(むらいようへい)と申します。私は、金沢美術工芸大学でデザインを勉強した後に、関西の企業にインハウスデザイナーとして勤めました。その後、京都市立芸術大学大学院修士課程、博士課程を修了し、教員になりました。この度、京都の地に戻る機会を頂きましたことを、大変嬉しく思っております。

自身の研究テーマとしては、大

きく二つに分けて考えております。一つ目は、「プロダクトデザイン実務」です。プロダクトデザインは、建築以外の工場から出荷されるような工業製品がその対象であり、非常に幅広いのです。私は、モノが好きだということから、それを考えるデザイナーになりたいと考えたため、一つでも多くのジャンルの製品に携わることを目標としています。二つ目は、伝統工芸を対象としたデザイン研究です。西洋化に伴い和 문화は低

迷していききましたが、高度経済成長を経たこれからの日本は、現代にその価値をもう一度見直さなければならぬタイミングに來ています。これまで国内外の様々な伝統工芸に関わる機会がありました。中でも博士課程から継続している和楽器(三味線)の研究をコアにしています。三味線は江戸時代に誕生してから、四〇〇年に渡り姿や形を変えずに継承されてきた日本固有の楽器です。しかし、需要の低下に伴い、今後の継続が

危ぶまれる状況にあります。このような、希少な伝統工芸をプロダクトデザインの観点から研究することを通し、そこにおけるプロダクトデザイナーの社会的役割を明らかにしたいと考えています。デザインは、答えのないものに答えを創り出す分野です。教員、職員の皆様にご指導頂きながら、学生と共にデザインとその社会的役割を解き明かしていきたいと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

「さらば、生活科学会！」 とは言わずに…

諸井 克英

私事ながら、この三月で本学会を退職。二〇年近く勤めた静岡大学人文学部社会科学科から、二〇〇一年四月に本学会システム学科設置に伴い「travel」。二〇〇六年四月には、ひよんなことから人間生活学科へ。これによって生活科学会の一員に。退会というわけでもないようですが、所謂慣習つてことで何か記すことに。

ご承知のように、この生活科学会とは、生活科学部の学生さん、院生さん、卒業生の方々と、それと生活科学部の教員から構成される組織。年一回の会報および「生活科学」誌の発行に加え、種々の催し。このような充実した組織は、本学会に設けられている様々な学部・学科に存在。

生活科学という概念と社会心理学との間に学問的乖離感を抱きながらも、とくに「生活科学」誌というツールを思う存分活用。そして乖離感秘めつつも最後まで。そもそも研究とは何かということになるが、例えば「社会心理学」と狭く属性化された世界に呪縛されてよいのか。勿論、本学会は「社会心理学」で雇用されているのだから専門的世界の水準を意識しつつ(例えば、専門学会誌、科学研究費の取得など)、「社会心理学」の世界を自分なりに(奔放に)拡大することによって、自身自身のアイデンティティ確立を図ったつもり。

このための中心軸が学部ゼミ生さんや院生さんとの協業。例えば、各自の研究課題の設定は学生さんが自らの日常に基づき創案。ただし、これは長い歴史をもつ社会心理学研究に基づく知見というよりも、彼らが織りなす日常から発案される言わば奔放で無垢な発想。これにこちらが保有する知見を塗すことによる協業。この成果を「生活科学」誌に「論文風」にして掲載。無論、専門学会での発表などの手段もあるが、コスト(会員費、投稿費など)を最小にという「したたかさ」の発揮の技。

これに加えて、「社会心理学の主対象は日常カルチャーも」と言えはだから生き続ける」という個人的嗜好に沿って、「JOMO」や「果てはプロレスに至る「論」の展開の寄稿。これだつて実は先人たちが既に取り組んでいることを知り、研究者としてのアイデンティティの拡充感。その結果、卒論課題として学生さんによる設定にも巾。

ところで、わが国の黄金の八〇年代はとくに終焉し、未来が見えない混沌とした世界。生活科学会の皆さんに最後に贈る言葉。「大森靖子」の「オリオン座」(二〇一六年)だ。

「遊びを続けよう/5時の鐘がなっても 終わらない今日の日を重ねて/滲む世界を 抱きしめた/手を叩いて見るものすべてを喜んだ/死を重ねて生きる世界を壊したい/最高は今/最悪でも幸せでいようね」

それでは、最高で最悪の文章を最後まで読んで頂いたことに、感謝。

生活科学会 大会報告

第五十六回同志社女子大学生活科学会大会を二〇二二年七月一三日(水)午後三時から楽真館〇〇二教室にて平光睦子先生を会長として開催しました。

総会では、二〇二一年度事業報告および決算報告、二〇二一年度事業計画および予算についての審議を行い、承認されました。続いて、愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科陶磁専攻教授 長井千春先生による講演会「セラミックデザインの近代、日本におけるドイツ陶磁の受容」を開催しました。

講演では、「陶芸」とは異なる、ヨーロッパの影響を受けた食器デザインがどのように日本に根付いていったかについて、数多くの画像とともに説明していただきました。技術だけでなくデザインにおいても、ドイツが日本の陶磁器産業に影響を与えていたことが紹介され、陶磁器のジャンルには伝統工芸品だけではなくセラミックデザインという分野があり、日本の産業を支えてきたことがよくわかりました。



見学会報告 「チョコ」レートの世界へようこそ

株式会社明治で食育担当をされている管理栄養士の方に、「知られざるチョコレートの世界」について講演をしていただきました。当日は、講義やチョコレートのテイステイングを通して、原料生産から私たちの手に届くまでの過程とチョコレートの楽しみ方、そして、これまでの歴史と現在の取り組みについて、楽しく学びました。

今回の講演の中で、3種類のチョコレートのテイステイングをさせていただき、原料であるカカオ豆の産地による香味の違いを感じました。その背景には、気候に加えて、栽培や管理方法などが挙げられることを知り、チョコレートの安定的な生産を持続可能なものにしていくために、生産者向けの勉強会や環境に配慮した農法教育など、生産環境改善への取り組みについて理解することができました。そして、私たち消費者も、普段の食事から、ただおいしくいただくだけでなく、その食べ物ができるまでの背景を知ること、より有難さを感じられるとともに、社会課題に目を向けるきっかけになると思いました。

(SK4年)



研究会報告 「季節のフレッシュリース ワークショップ」

今出川キャンパスのすぐそばにある花屋「Mitsue」秋田和美さんの、季節のグリーンをふんだんに使ったフレッシュリース作りのワークショップに参加しました。生花を使ったリース作りは初めてだったので少し緊張しながら当日を迎えました。

まず教室に入るとグリーンのいい香りがすでに漂っており癒されたことでリラックスして取り組めました。そしてリース作りを行うにあたって使用する花材の種類や特徴、土台を飾り付けていく方法について丁寧に説明していただきました。初めは苦戦した部分もありましたが、参加者の皆さんとコミュニケーションをとったり秋田さんにアドバイスをいただいたりすることでうまく形にすることができました。完成したリースは同じ花材を使用していても参加された方々で表情の全く異なる、オリジナリティに溢れたものとなりました。帰宅後リースはリビングの一番目立つ場所に飾り、色の変化を家族で楽しんでいます。

季節のフレッシュリース作りを通して、癒しのひとときを過ごせました。

(L4年)



卒業生からの近況報告

二〇二〇年度L卒

私は在学中、環境計画学ゼミに所属し、齋藤先生のもとで学びました。ゼミ生がそれぞれ興味のある内容に取り組んでおり、多様なテーマや考えに触れることができました。齋藤先生の研究テーマである農家レストランをはじめ、バリアフリー、

観光、移住など、多方面から地域の環境や経済、生活、社会をよくするための学びを得ることができました。

その中で私は、屋外での暑さ対策をテーマに卒業論文を執筆しました。その論文を生活科学会誌に投稿したご縁で、この度寄稿することとなりました。

卒業後は、環境計画学研究室での助手を経て、守口市役所に就職しました。現在は、市で保

有している公文書の公開や、個人情報保護などに関する業務を担当しています。

在学中の取り組みで印象に残っているのが、キャリア支援部実施のインターンシップです。

守口市役所でのインターンシップに参加し、実際の業務を体験しました。具体的には、指定管理者制度によって管理されている公園に同行して現地調査を行ったり、指定管理者の方に質問

させていただいたりしました。市役所でのインターンシップといたって得難い機会に、大学の支援を受けて参加でき、貴重な経験となりました。

このインターンシップでの経験や、ゼミでの学びといった在学中の取り組みが、就職の際に大きな影響を与えてくれました。

現在の担当業務は、在学中に取り組んでいた内容とは異なる



二〇一〇年度S卒



私は二〇一一年三月の卒業後、今年で十二回目の季節を迎えました。当時は日々の勉強や実習、卒業論文に向けた研究に追われながら、軽音楽部の活動に明け暮れた大学生活を過ごし、その後は恩師である村上恵先生の調理学研究助手やカフェでのバリスタなど、様々な仕事を経験してきましたが、全て

は自分の人生に繋がっていると改めて感じています。

現在は、地元である滋賀県高島市内の総合建設会社で運営する、観葉植物店のスタッフとして勤務しています。お客様の暮らしに寄り添った観葉植物を提案する傍ら、昨年にはバリスタ経験を活かし、会社のオリジナルコーヒーの開発にも携わりま

した。コーヒーを通じて人が集まり、社員の方やお客様とのコミュニケーションが「暮らしのゆたかさ」となって広がっていくことに充実感を覚える日々を送っています。

同志社女子大学で得た学びは、私の視野を大きく広げてくれました。これまでに何度も転職をしましたが、無駄だったと

思う経験は一つもありません。多くの人と出会い、支えられて今の私があると同時に、その学びや経験の全ては人生に繋がっており、慌ただしくも「今を大切に」と実感する毎日です。

最後になりましたが、生活科学会の今後の益々のご発展と、卒業生の皆様の益々のご健康、ご活躍をお祈りしております。

二〇〇八年度SK卒

私は同志社女子大学を卒業後、お茶の水女子大学大学院、筑波大学大学院博士課程に進学しました。私が進学することを選んだ理由は、学部在籍時に栄養学についての幅広い知識を学ぶことができ、「食事・栄養と疾病発症の関連についてさらに

深く調査研究がしたい」と思ったためでした。大学院在籍中は、2型糖尿病などの生活習慣病発症と関連する要因について虎の門病院人間ドックデータを活用した疫学研究プロジェクトに携わる機会を得ることができました。また大学院在籍中には、茨城県水戸協同病院の管理栄養士として臨床現場で勤務する経験も得ました。

その後、日本学術振興会や米

国心臓病協会 (American Heart Association, AHA) のフェロシップサポートを受けてボストク研究員として研究活動を行いました。以前から興味を持っていた、遺伝素因ならびに遺伝素因と食事要因の交互作用が疾病リスクに与える影響について研究を行っています。これまで私たちの研究チームが発表した複数の論文において、遺伝的に心筋梗塞や2型糖尿病などの病気

を発症するリスクが高い人であっても、食事摂取量や組成を変更することでそのリスクを変更することが可能であるという見解を見出しできました。

現在は米国 Tulane University School of Public Health and Tropical Medicine 疫学学部の教員として勤務しており、National Institute of Health のサポートを受けて様々な研究活動に取り組んでいます。遺伝素因、食事・

栄養、新しいバイオマーカー等と、肥満・心血管疾患などの疾病発症リスクについて疫学研究を進めています。大学では自由な発想で研究できる環境に恵まれており、日々得られた研究成果を医学、栄養学雑誌や国際学会で発表しています。

『同志社女子大学生活科学』第五十六巻・内容

(二〇二三年発行)

学会では年一回会誌『同志社女子大学生活科学』を発行しています。

二〇二二年度は第五十六巻を発行しました。卒業生の方で購読ご希望の方は五百円(送料込み)をお振込みの上お申し込み下さい。折り返し会誌をお送りします。バックナンバーもごさいます。また、四十四巻から論文を本学のホームページ上で公開しています。なお、会員の方はどなたでもこの会誌に投稿することができます。投稿規定と原稿の書き方は生活科学会 Web サイトにてご確認ください。原稿締切りは毎年十月中旬です。

岩谷幸春先生を偲ぶ――孤高を持する人―― 宮本 義信

〈原著論文〉

否定的な対人的出来事におけるストレス対処と葛藤対処との関係

――女子大学生の場合―― 諸井 克英・尾方みらい

高校時代における担任教師イメージと高校雰囲気に対する満足感に関する回顧

――女子大学生の場合―― 諸井 克英・大久保亜美

服装・身だしなみに関する校則についての考察

――東京都立高等学校校則調査を中心に―― 山本 優芽

〈資料〉

数のつく食べ物 (9) 名前に数字の九がつく食べ物 (その1) 森田 潤司

数のつく食べ物 (9) 名前に数字の九がつく食べ物 (その2) 森田 潤司

数のつく食べ物 (9) 名前に数字の九がつく食べ物 (その3) 森田 潤司

数のつく食べ物 (9) 名前に数字の九がつく食べ物 (その4) 森田 潤司

数のつく食べ物 (10) 名前に数字の十がつく食べ物 (その1) 森田 潤司

数のつく食べ物 (10) 名前に数字の十がつく食べ物 (その2) 森田 潤司

数のつく食べ物 (11) 名前に数字の十一から九十九がつく食べ物 (その1) 森田 潤司

数のつく食べ物 (11) 名前に数字の十一から九十九がつく食べ物 (その2) 森田 潤司

数のつく食べ物 (11) 名前に数字の十一から九十九がつく食べ物 (その3) 森田 潤司

数のつく食べ物 (11) 名前に数字の十一から九十九がつく食べ物 (その4) 森田 潤司

数のつく食べ物 (11) 名前に数字の十一から九十九がつく食べ物 (その5) 森田 潤司

数のつく食べ物 (11) 名前に数字の十一から九十九がつく食べ物 (その6) 森田 潤司

2022 年度生活科学会決算書

(自 2022 年 4 月 1 日～至 2023 年 3 月 31 日)

(単位：円)

□経常会計

	項目	予算	決算
収入	会費	2,943,000	2,901,000
	寄付	0	0
	利息	200	146
	雑収入	129,000	135,000
	研究会運営費	30,000	22,500
	見学会所要費	0	0
	収入 計	3,102,200	3,058,646
支出	大会運営費	120,000	112,076
	研究会運営費	100,000	95,000
	見学会所要費	0	0
	備品費	0	0
	印刷費	700,000	567,577
	通信費	200,000	151,624
	交通費	0	0
	文具雑品費	70,000	56,646
	アルバイト費	600,000	503,718
	雑費	20,000	13,984
	租税公課	1,500	1,049
	奨学金運営費振替	0	0
	支出 計	1,811,500	1,501,674
	当年度収支差額	1,290,700	1,556,972
	前年度繰越金	9,646,510	9,646,510
	次年度繰越金	10,937,210	11,203,482

□奨学金会計

	項目	予算	決算
収入	利息	500	566
	寄付	0	0
	奨学金運営費	0	0
	収入 計	500	566
支出	奨学金	650,000	600,000
	支出 計	650,000	600,000
	当年度収支差額	△649,500	△599,434
	前年度繰越金	21,653,354	21,653,354
	次年度繰越金	21,003,854	21,053,920

奨学金のお知らせ

生活科学会では、本学生活科学部に所属する学生・院生に奨学金を支給しています。募集は9月に行います。詳細は同志社女子大学ホームページにてご確認ください。

生活科学会運営委員 (2023 年度)

(敬称略)

教 員	川崎 祐子 (会長)	倉橋 優子 (副会長)
	麻生 美希	藤本 純子
	村井 陽平	奥村 仙示
		今井 具子
		米田 祐子
卒業生		
院 生		
在学生	人間生活	食物科学 管理栄養
	4 年次	
	3 年次	
	2 年次	
	1 年次	
事務局	尼川佐知子	

研究室だより

服飾文化（平光）研究室

服飾文化研究室は新たに13名のゼミ生が加わり新年度を迎えました。

ご指導の下、それぞれの研究・課題や就職活動に取り組まれます。皆様が充実した一年を過ごせるよう精一杯サポートしていききたいと思えます。

（助手）

住生活学（奥田）研究室

今年度は11名の3回生を迎え、計25名のゼミ生と共に新学期をスタートしました。4回生は、卒業論文のそれぞれの研究テーマに取り組みようとしています。3回生もグループ調査の課題を決定し、調査の準備に取り掛かっています。皆様の大学生活がより良いものになるよう、精一杯サポートしていきたいと思えます。

（助手）

被服学（藤本）研究室

被服学研究室は4回生16人、3回生13人の計29人のゼミです。4回生は、各自卒業論文のテーマを決め、昨年度学んだことを活かしながら、それぞれの研究に励んでいます。3回生は、実際にデザインを描く課題などを通して、専門性を深めた学びを進めています。それぞれの強烈な個性を発揮し、刺激し合いながらゼミでの活動を楽しんでいきたいと思えます。

（ゼミ生一同）

住居計画（塚田）研究室

本研究室は今年度、新たに12名の3年生を迎え入れ28名（4年生16名）になりました。これからゼミ生の皆様は、塚田先生の温かな

ご指導の下、それぞれの研究・課題や就職活動に取り組まれます。皆様が充実した一年を過ごせるよう精一杯サポートしていききたいと思えます。

（助手）

プロダクトデザイン（村井）研究室

今年度より発足した本研究室

は、13名の3回生と共に歩み始めました。プロダクトデザインを幅広く研究されている村井先生の研究室では、制作のための機材や、デザインのヒントとなるサンプルに囲まれています。それらを活用し、これからゼミ生が様々な発想や技法を通じて制作に取り組まれていくことを、私も助手としてサポートできるよう努めて参ります。

（助手）

生命倫理学（小崎）研究室

新年度に入り、このごろは新緑の華やかな季節となりつつあります。今年も生命倫理学研究室では4年次生8名と、新たに3年次生6名をゼミに迎え、14名それぞれ研究テーマと真剣に向き合って課題をこなしています。私も、日々を忙しく過ごす学生を陰ながらサポートできるよう努めて参ります。

（助手）

都市空間（麻生）研究室

今年度は3回生7名を迎え、10名となりました。昨年度の応用演習では、奈良きたまちエリアを対象地とした民学官連携のまちづくりプログラムに参加し、地域課題解決に向けての提案を現地で行いました。また、白川郷の合掌造り集落で文化的景観を活かしたまちづくりについて学びました。皆さんがより良い環境で学びを深めら

れるよう、私も努めて参ります。

（助手）

ユニバーサルデザイン（土井）研究室

今年度は新たに13名の3年生を迎え、計23名のゼミ生と共に本研究室2年目が始まりました。本研究室初の四年生は今出川キャンパス構内の触知図製作や視覚障がい者に配慮した触覚情報付きメイクアップビューティーテキストの検討など、各々の研究に取り組んでいます。私も土井先生と共に、微力ながら精一杯サポートいたします。

（助手）

調理学（村上）研究室

本研究室は食物科学専攻の学生6人と、村上先生、助手の中野さんの8名で活動しています。明るく個性豊かなメンバーの集まる研究室は、いつも賑やかで、笑い声が響きわたっています。今年度は2チームに分かれ、酒の調理特性とピーマンの冷凍処理について研究する予定です。学生生活最後の1年を充実した時間にできるよう、力を合わせて頑張ります。

（ゼミ生一同）

調理科学（真部）研究室

今年度も、明るく元気なゼミ生8人が卒業研究を開始しました。3テーマに分かれ、和食の煮汁の香りや柏餅の葉の香りについて、

それぞれ官能評価や機器分析に取り組み始め、春休み中静かだった研究室も活気が戻ってきました。時には、壁にぶつかり苦戦することもあると思いますが、お互いに協力しながら乗り越え、良い学びにつながることを願っています。

（助手）

栄養教育学（片井）研究室

今年度は、カリキュラム編成の過渡期のため、全科目において旧カリキュラムが並走しており、片井先生と慌ただしい日々を奮闘中です。学部生から院生まで全学年の学生とお目にかかる中で学び、吸収できることを大切に、頭を、身体を、そして心をフル稼働し、片井先生と共に学生を全力でサポートしたいと思っております。

（助手）

実践栄養学（小切間）研究室

今年のゼミは、成長期や高齢期などの対象者別に分かれて、食生活と健康について研究を行っています。目標に向かってゼミ生同士助け合いながら頑張りたいと思います。学生のことをよく考えて下さる小切間先生、困った時に助けて下さる助手の尾崎さん、共同研究先の先生方にご指導頂きながら、充実した1年間にしたいと思います。

（ゼミ生一同）

基礎栄養学（鈴木）研究室

二〇二三年度は、ゼミ生（食管9名）、大学院生2名、新しい助手の古家さん、鈴木先生の13名で研究活動をスタートさせています。地道な基礎的な実験がメインとなりますが、皆で協力しコツコツ頑張っていきたいです。鈴木先生、古家さん、大学院生のお二人の優しく手厚いご指導を頂きながら成長できる一年にしたいと思っています。

（ゼミ生一同）
今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生が所属することとなりました。吉田先生がゼミ生を迎えられるのも8年目となり、先輩方の研究を参考に、さらに良い結果を得て欲しいと思います。ゼミ生にとって、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙し過ぎて行く一年になると思いますが、実り多い時間になるよう精一杯サポートして参ります。

公衆衛生学（吉田）研究室

（助手）
今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生が所属することとなりました。吉田先生がゼミ生を迎えられるのも8年目となり、先輩方の研究を参考に、さらに良い結果を得て欲しいと思います。ゼミ生にとって、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙し過ぎて行く一年になると思いますが、実り多い時間になるよう精一杯サポートして参ります。

給食経営管理学（神田）研究室

今年は給食経営管理学研究室に9名のゼミ生が所属することになりました。ゼミ生にとって、卒業研究や就職活動、国家試験の勉強と忙しなりますが、実りある一年を過ごしてほしいと思います。

（助手）
私自身、助手一年目であり、まだまだ不慣れなことが多いですが、来年の春には全員笑顔で卒業できるよう、精一杯サポートしていききたいと思います。

臨床病態学（田中）研究室

（助手）
今年は9名のゼミ生が来られる予定です。大学院生は8名となり、あわただし日々を送っていますが、にぎやかで楽しい1年となります。テーマは、疲労や意欲などさまざまですが、充実した学生生活になるよう、準備万端みたいです。

（田中雅彰）
皆様、よろしくお申し上げます。

臨床栄養学（奥村）研究室

（助手）
体感的には時空を瞬間移動したかのような早さで着任1年が経過しました。助手が松本 から尾上 となり、奥村ゼミ第1期生をなる9名をお迎えすることができ嬉しく思います。ゼミ生一人一人が楽しく過ごし、また次世代を生き抜くスキルを身に付けられるよう「半学半教」の精神で学生さんと共に研究環境を立ち上げていきたいと思っています。（奥村仙示）

生化学（倉橋）研究室

（助手）
長く続いたコロナ禍に収束の兆しが見えつつある今日この頃：本研究室は食管1名のゼミ生を迎えました。今年度は数年ぶりに動物飼育をする予定であります。飼育に向け、現在は卒論の実験計画を練りつつ、腕慣らしの予備実験を行っています。卒論に就活、国試と忙しくなりますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせて頂きます。

食品微生物学（川崎）研究室

（助手）
今年度、食品微生物学研究室はいつもより少ない人数のゼミ生を迎えスタートしました。川崎先生の熱心なご指導のもと、各々文献検索や予備実験に積極的に取り組んでいるようです。

食品微生物学（山本）研究室

（助手）
今年度は食管7名、食物2名が各々実験に勤しんでいます。大変なこともあります、学生最後の貴重な時間を有意義なものにしてほしいと思います。研究室で学んだことが役に立ち、社会に貢献していたら嬉しく思います。本ゼミ卒業生の皆さま、西村先生

に配属されました。実験操作に慣れるための予備実験を終え、最近では本研究室のテーマである澱粉糊化についての勉強会を行いました。今後は3つの研究テーマに分かれて、自分たちで実験計画を立てながら研究を進めていきます。

（助手）
彼女たちが充実した1年を過ごせよう、微力ながらも精一杯サポートしていききたいと思います。

食品栄養学（森）研究室

（助手）
葉桜が鮮やかな季節となり、食品栄養学研究室は2名の4回生と1名の大学院生を迎えました。昨年度までと比べると少人数でのスタートとなり、落ち着いた雰囲気の中で研究を進められるのではないかと思います。研究活動をサポートするとともに、日々新しいことを吸収していく彼女達から刺激を受けながら私自身も成長したいと考えています。

食品加工学（西村）研究室

（助手）
今年度は食管7名、食物2名が各々実験に勤しんでいます。大変なこともあります、学生最後の貴重な時間を有意義なものにしてほしいと思います。研究室で学んだことが役に立ち、社会に貢献していたら嬉しく思います。本ゼミ卒業生の皆さま、西村先生

はあと3年で退官されますので、ご挨拶を考えておられる場合はどうぞお早めにお越しください。

（助手）
今年度、食品機能学研究室は9名のゼミ生と1名の院生を迎えました。就職活動で多忙な中、慣れない分析機器の扱いに格闘しながら与えられた課題に積極的に取り組んでいます。彼女たちがゼミを通して大きく成長し、学生生活最後の1年間が楽しく充実した日々になるよう、精一杯サポートしていききたいと思います。

食品機能学（杉浦）研究室

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

運動生理学（米田）研究室

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

（助手）
今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとっては卒業研究と就職活動等多忙の一年になるとは思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長して欲しいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していききたいと思います。

生活科学会第五十七回大会案内

一、総会

会長挨拶

二〇二二年度事業報告および決算報告

二〇二三年度事業計画案および予算案審議

二、講演会

「やさしい和食でムダなく美味しく」

大原千鶴氏（料理研究家）

生きていく中で一番大切な食事。どこでも簡単に食事を取ることのできる現在ですが、やはり大切にしたいのは簡単で安心できる家庭料理。中でも和食は心と体を整えてくれます。毎日のご飯を簡単に無駄のないものにするコツをお伝えします。

＜講師紹介＞

京都・花背の料理旅館「美山荘」の次女として生まれる。幼少から里山の自然に親しみながら和食の心得や美意識を育む。二男一女の母として培った、家庭的かつ美しい料理に定評がある。雑誌やテレビ出演、料理教室、エッセイ執筆、CMやドラマの料理監修などで活躍。近著「大原千鶴のいづくしみ料理帖」（世界文化社）他多数



参加費無料・要事前申込
【受付締切：6/26（月）17:00】

見 学 会

京菓子手づくり体験

内 容 京都の和菓子の老舗「亀屋良長」で、和菓子のレクチャーと生菓子の手づくり体験を行います。自分で作った和菓子と一緒に抹茶もいただけます。京都ならではの食文化を体験してみたい方が良いでしょう。

日 時 2023 年 11 月 4 日（土）14:00～16:00
場 所 亀屋良長 本店
〒600-8498 京都府京都市下京区四条通油小路西入柏屋町 17-19
・市バス
「四条堀川」下車すぐ
（京都駅からは 9、50、101 番に乗車）
・電車
阪急大宮駅 東 3 番出口から徒歩 5 分
阪急烏丸駅、地下鉄烏丸線四条駅 24 番出口から徒歩 10 分

集合時間 13:50 までに現地集合

参加費 500 円

定 員 30 名

受付期間 2023 年 10 月 23 日（月）～10 月 27 日（金）
（要申込、申込多数の場合抽選となる可能性があります）

研 究 会

本場の美味しい紅茶を知る「贅沢な紅茶時間」

内 容 スリランカのティーテイスターの茶道具を用いて、熟練した専門家のやり方で、紅茶のテイastingを体験。紅茶原産国から届いた単一茶園の新茶を使い、本来持つ香味を五感で味わいます。さらに、現地で撮影した写真を通じて、製造工程や背景について深く学び、海外の茶文化に触れる貴重な体験ができます。美味しい紅茶で心を満たす贅沢な時間を過ごしましょう。

日 時 2023 年 11 月 1 日（水）15:00～16:30

場 所 今出川キャンパス 楽真館 R 207 教室

講 師 紅茶専門家 福田万弓さん
（TEA GIORNO KYOTO. 代表）
京都らしい紅茶教室ティージョルノ主宰
Tea coordinator ディプロマ取得
英 国「TEA & MANNER CERTIFICATE OF COMPLETION」取得

参加費 500 円

定 員 30 名

受付期間 2023 年 10 月 16 日（月）～10 月 20 日（金）
（要申込、申込多数の場合抽選となる可能性があります）

問い合わせ先

同志社女子大学生生活科学会

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

(E-mail) hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp

(TEL) 075-251-4211

(Web サイト)

<https://hlgakkaidwcla.com/>



申込方法

大会講演会・研究会・見学会のお申込みは、生活科学会 Web サイト内申込フォーム、E-mail、ハガキのみとさせていただきます。必ず、氏名・住所・メールアドレス（お持ちでない方は電話番号）・学籍番号もしくは卒業年を明記してください。